

## 平成28年度第1回千葉市史編さん会議議事録

- 1 日 時：平成28年7月15日（金） 午後1時30分～3時30分
- 2 場 所：千葉市立郷土博物館 講座室
- 3 出席者：（委員）  
吉田会長、本郷副会長、今井委員、緒志委員、白井委員  
（千葉市史編集委員会代表）  
池田委員長  
（事務局）  
大崎生涯学習部長、芦田文化財課長補佐、戎谷郷土博物館館長、  
小川副館長、白根主査、土屋主任主事、大関（囑託）、笹川（囑託）

### 4 議 題

- (1) 平成28年度事業予定（案）について
- (2) 今後の事業予定（案）について
- (3) その他

### 5 議事の概要

- (1) 平成28年度事業予定（案）について  
平成28年度に予定される事業について、史料調査・収集・整理事業、『史料編近現代』関係調査、市史等の刊行事業、編さん普及事業、市史研究事業、市史協力員（ボランティア）の活動の6つの項目に分けて説明し、承認された。
- (2) 今後の事業予定（案）について  
来年度の講座、今後の刊行物について説明し、方向性を確認した。
- (3) その他  
特になし。

### 6 会議経過

午後1時30分、委員5人中5人出席。  
司会（小川副館長）より資料確認、大崎生涯学習部長より挨拶を行った。その後、司会より設置条例第5条第2項の規定により、会議が成立する旨が告げられ開会。  
吉田会長の挨拶に続き、設置条例第5条第1項の規定により会長が議長となり議事に入った。

#### 議題1 平成28年度事業予定（案）について

平成28年度に予定される事業について、上記6つの項目に分けて白根主査が説明。

<質疑応答>

吉田会長：少しずつ分けて質疑を開始したい。最初に、調査に関わる史料調査・収集・整理事業、『史料編 近現代』関係調査についてはどうか。写真史料について目録を作成して返却したとのことだが、どういう形で整理作業をしているのか。

事務局（土屋）：スキャニングして画像データとして保存したうえで返却している。

吉田会長：その場合、どういう情景がとられているかも含めて保存するのか。

事務局（土屋）：目録の備考欄に、分かる範囲で情景等を記載している。

今井委員：白戸栄之助氏の史料は写真だけなのか。

事務局（土屋）：文書類は空襲で焼けてしまったとのことである。

今井委員：十九夜講関係の史料があるとのことだが、その内容はこういったものか。無尽講などの史料はあるのか。

事務局（土屋）：ざっと見た限りは入用帳だけだった。

池田委員長：当用日記とあるが、いつ頃のものか。

事務局（土屋）：明治・大正・昭和初期のものである。断片的に残っている業務日誌のようなものである。

吉田会長：写真史料が増えているようだが、自分も他県の古文書調査で古写真の調査をしている。明治30年代から戦前期まで幅広く貴重な写真があるが、写っているさまざまな人やモノの情報が所蔵者でないとわからないものも多い。建物など手掛かりはいくつかあるが、わからない情報については所蔵者からの聞き取りが大切だと思い、いろいろ模索している最中である。千葉市では写真史料についての聞き取りなどは行われているのか。

事務局（土屋）：写真史料の情報については、借用時に所蔵者から聞き取っている。ただし、別の写真家を經由して寄贈された写真史料については、撮影時の詳細な情報を収集することは難しい。

吉田会長：継続中の調査や近現代関係の調査についてはどうか。他関係機関の史料群の収集目的はどのようになっているのか。

事務局（土屋）：現在は近現代で千葉市域に関連した史料を撮影して収集している。

緒志委員：歴史的公文書の整理が2次分・3次分とあるが、この違いはなにか。作業上の分類整理ではなく、単なる仕分けをするうえでの違いなのか。

事務局（土屋）：多数ある文書保存箱を何回かに分けて借用しているため、2次分・3次分としている。内容も違っている。

今井委員：歴史的公文書については、市所管課で全てマイクロフィルムによる撮影をしているのではないのか。

事務局（土屋）：マイクロフィルムで撮影されているものもあるが、あくまで保管用であり、貸し出しはできないようである。

今井委員：市史では必要な部分だけ撮影しているのか。

事務局（土屋）：近現代の編集委員に選定してもらった部分を、事務局で撮影する形をとっている。

吉田会長：他機関の所蔵史料について、例えば国会図書館の古典籍関係や旧幕府引継文書の与力旧知関係など、千葉市域に関するものがあることが前から気になって

いる。慶応義塾大学文学部古文書室や東京大学大学院法学政治学研究科附属近代日本法政史料センター、国文学研究資料館などにも千葉市域関連の史料があると思う。もしまだ体系的に着手していないのであれば、少しずつでも行うべきではないか。その場合には研究者や史料所蔵機関などの協力も得ながら情報を集める必要がある。

事務局（土屋）：他関係機関の史料群について、現状では戦略的な収集はしていない。今後ご意見をいただきながら進めていきたい。

今井委員：千葉県史の編さんでは、他機関の所蔵史料をどのように調査していたのか。

吉田会長：慶応義塾大学は調査に行ったが、全部ではない。体系的ではなく、わりとランダムであった。一橋大学や東京大学史料編纂所にも千葉郡関係の史料があったと記憶している。東京大学史料編纂所であれば本郷委員はもちろん、近世史の研究者の協力を得ながら情報収集はできるのではないかと。

池田委員長：近現代であれば防衛省防衛研究所なども考えられる。千葉市域の軍事施設の設立経緯などがわかる可能性がある。かなりインターネットで公開もされているが、「軍都」千葉である以上、いずれは軍隊に関わることを調査する必要があると考えている。

吉田会長：町村議会関係史料について、資料に記載の年次が飛んでいる理由は何か。

事務局（土屋）：これまでにデータ化した年次のものだけ記載している。

池田委員長：千葉県文書館所蔵の島田家文書の調査について、撮影した史料は目録を作成しているのか。

事務局（大関）：島田家文書の仮目録データに入れ込んでいく形で作業の記録を取っている。目録を見れば撮影した史料の内容がわかるようになっている。

吉田会長：続いて、市史等の刊行事業、編さん普及事業、市史研究事業、市史協力員（ボランティア）の活動についてはどうか。

白井委員：ニューズレターの号外を出したとのことだが、予算が許すのであれば今後必要に応じて内容を市民に知らせることが大切だと思う。ニューズレターは、市史編さん事業を市民に知らせるのに有効な手段である。市史ミニ企画展で今まで収集した古文書を展示することは、市民に古文書の価値が見えるので良い企画だと思う。所蔵者にも来館していただければよいのではないかと。ニューズレター等で宣伝しながら、できるだけ多くの人に来館してもらえるとよいと思う。

吉田会長：市史ミニ企画展について、もう少し説明をお願いしたい。

事務局（土屋）：今まで収集した古文書を数点、初級・上級といったレベル別に分けて展示する。その際、展示する古文書に対して、読み下しや内容紹介などを付ける予定である。また、茶箱など、古文書が収納されていた状況を示すことにより、「古文書ってこういう風に残っている」ということを提示して情報収集につなげることができればと考えている。

白井委員：今回も初級古文書講座の抽選から外れた応募者がいるようなので、こうした展示があるといいと思う。また、抽選から外れた応募者に、崙書房の『古文書でよむ千葉市の今むかし』を紹介したり、次回の講座で優先的に受講できるようにしたりというような配慮も考えられる。

吉田会長：市史ミニ企画展で展示する古文書は、複数の文書群からピックアップする  
のか、あるいは1つの文書群から出すのか。

事務局（土屋）：いろいろな文書群からピックアップして展示する予定である。

吉田会長：こうした企画は一時的なものではなく、展示する史料を入れ替えながらや  
るべきではないか。古文書を収集したら、そこからわかってきたことを知らせる  
ためにも常時展示するべきではないか。

白井委員：古文書ボランティアに、企画展の手伝いをお願いしたらどうか。

事務局（土屋）：何らかの形で協力をしてもらう予定である。

吉田会長：読み下しや解説などは別途プリントを用意しておくのか。

事務局（土屋）：これまでに使用した古文書講座のテキストなどを置く予定である。

吉田会長：誰か解説する人が常駐するのか。

事務局（土屋）：常駐ではないが、古文書ボランティアによる古文書の解説を何日か  
設定する予定である。

吉田会長：初級古文書講座で抽選から外れた応募者を次回の講座で優先的に受講でき  
る方が良いと思うが、その方法については検討を要する。そもそも古文書講座  
の受講希望者はリピーターが多いのか。

事務局（土屋）：リピーターも結構いる。ただし、初級古文書講座は半々である。

本郷副会長：それを完全に抽選するのか。

事務局（土屋）：完全にかつ厳正な抽選を行っている。

本郷副会長：そうであれば、やはり過去に抽選から外れた方を優先してあげてもよい  
のではないか。

今井委員：以前は、初級古文書講座で3回以上受講した方は受け付けないこととした  
ように覚えている。

吉田会長：以前から応募者が多かったのか。

今井委員：講座で使用する場所の大きさを考えてもそれが限界であった。当時は配付  
資料を準備するのも大変だったように覚えている。

吉田会長：そもそも「古文書を読みたい」というのはどういう欲求なのか。そして「古  
文書が読める」というのはどういうことなのか。

緒志委員：私の知り合いは郷土史に興味にある方が多い。古文書に限らずに郷土史を  
勉強している方が、更に深く知識を得る目的で古文書に入ってくるようだ。家に  
古文書があって個人的に先祖のことが知りたいという例もある。一般的には郷土  
史全体に興味がある方が古文書に興味を持たれるようだ。

白井委員：前回の資料を見ると、60代以降の受講が多い。第二の人生の中で「学び  
直し」という意識もあるのかもしれない。

本郷副会長：文字が書いてあると「読みたい」という欲求もあるのではないかと思う。  
博物館等で古文書を展示していると、一般の来館者も止まって読もうとすること  
もある。ある種の自ずから生じる欲求というものか。手書きで書かれたものでは  
あるが故に、半分くらいはわかったりするので、読めないとなると、より知りたい  
と思うものなのではないか。

吉田会長：古文書の読み方については、教える方やテキストも、それぞれのところで

工夫されていて、我流というか、教えるとか学ぶということを経験的に検討しているようなところをみたことがない。崙書房から出版した『古文書でよむ千葉市の今むかし』も全く我流で作ったものである。市民に何がどのように提供できるかを体系的に考える必要があると思う。

白井委員：『古文書でよむ千葉市の今むかし』は、古文書が写真で載っていて、それに対する読み下しや解説もあるので、独学で学習ができるという点で、古文書を勉強しようとする方にはいいテキストだと思う。

吉田会長：市史研究講座や市史協力員（ボランティア）についてはどうか。

本郷副会長：上級古文書講座というのは、将来的に古文書整理をするボランティアを養成することに直接関わってくるのか。

事務局（土屋）：まだ具体的な目標は定めていない。

白井委員：中級古文書講座の受講者に、ボランティア活動の参加についてアンケートをとってみてもいい。どれくらいの人に参加する気持ちがあるかもアンケートである程度把握できるのではないかな。

吉田会長：ここで想定しているボランティアは、現状記録や目録を作成する人を養成しようとするものなのか。

事務局（戎谷）：一定の素養があるという前提で、以前の内容を踏まえながら、当館の展示解説ボランティアをしている方を想定に入れて、古文書の整理に関わってもらおうかと考えてもいる。現状では一般公募は考えていない。入り口は狭めになるが継続していきたいと思うので、将来的には中級古文書講座でのアンケートも視野にいれていきたい。

吉田会長：長野県の山間部で10年ほど調査をしている。これまでは我々だけの調査が多く、地元の方との関係といえば聞き取り調査をするぐらいであったが、ここ数年で地元の方との関係が密になってきており、調査そのものを手伝ってくれることがある。現状記録は誰でも一緒にできる作業であり、それに立ち会うことで関心を強く持つことができる。古文書整理で最初の面白い作業である。現状記録はどこでも誰でも工夫次第で参加できる。とりあえず市の関係者だけで作業するのではなく、希望者を少し募って市民の方に来てもらい、手伝ってもらいながら現状記録を行うという工夫もあり得るかと思う。文書が読めるようになることと、こうした整理作業に参加することは別ではないかと思う。

吉田会長：議題1についてはよろしいか。では続いて議題2に移る。

## 議題2 今後の事業予定（案）について

今後の予定事業について、来年度の事業、今後の刊行物の2つに分けて白根主査が説明。

### <質疑応答>

吉田会長：では、議題2全体について何かご意見があればお願いしたい。

本郷副会長：史料の収集・活用に関する内部的なガイドライン、及び史料のデジタルアーカイブ化とは具体的にはどのようなことを考えているのか。

事務局（土屋）：内部的なガイドラインについては、前回の会議で出た話であるが、個人情報などへの対応として考えたものである。来年度中の作成を検討している。デジタルアーカイブ化については、全国各地で所蔵史料をデジタル上で公開する自治体も多いことを踏まえ、できる限りそうした方向性について検討していき。

緒志委員：『史料編 近現代』であるが、B5判の上製本を想定しているとのことで、平成28年度に章立ての再検討などを行うという理解でよいか。

事務局（土屋）：ある程度のプラン、各巻の章立てなどは既に数年前に作成しているが、新規に収集した史料もあるので、これらを踏まえた再検討を今年度中に行いたいと考えている。

緒志委員：史料編ということは史料だけを集約するということか。この刊行物を次期実施計画の中に位置づけていきたいという話が大崎部長からあったが、具体的にどう位置付けていきたいのか。

事務局（大崎部長）：千葉市が実施する主要な事業は、実施計画に位置付けないと予算の確保が難しく、数百万単位での事業となると、ロードマップを示して、予算化する必要がある。毎年、予算要望を行っているが、今の実施計画の中で『史料編 近現代』は対象事業から外れており、緊急性等の理由により、なかなか予算が付かない状況である。『史料編 近現代』について、経常的な史料収集の予算は確保したが、編集作業については予算の確保まで至っていない。これからの財政当局との折衝においては、30年度からの次期実施計画もあるため、29年度中に実施計画の事業選定等により、予算の枠組みが決まる。本市としては、千葉開府890年の関係で千葉氏を含む都市アイデンティティ関係の事業が最優先となり、市全体で推し進めているところであり、これらとうまく連携しながら、『史料編 近現代』刊行に向けた予算をできるだけ確保できるようにしたい。

緒志委員：市史編さん事業について、次期実施計画に具体的に予算要求を入れていくという理解でよいか。

事務局（大崎部長）：市史編さん事業自体が否定されているわけではない。全体の予算での優先順位の問題である。次期実施計画には『史料編 近現代』を計画事業に位置付けられるよう働きかけていきたい。

緒志委員：30年度からの実施計画に市史編さん事業に関わる費用を要求し、計画に盛り込んでもらえるように事務局として動いていくということか。

事務局（大崎部長）：毎年度チャレンジをしながら、次期の実施計画にも位置付けてもらえるよう努力したい。

池田委員長：努力するだけではなく、『史料編 近現代』をいかに盛り込むかの戦術を具体的に立てていく必要があるのではないか。市制100周年を迎えるのは、平成32年度だが、これはかなり重要な画期である。そのための準備をするのであれば、今からでも遅いくらいである。市制の歩みを振り返る中で『史料編 近現代』刊行の意義が見いだせるのではないだろうか。

事務局（大崎部長）：市制施行100周年の時期に『史料編 近現代』が刊行されているのが望ましい。タイムリミットはあると思うが、そのために何をするかを考えていきたい。市のどの事業も大切なので、ひとつ事業を止めて新しく事業を始

めるのはなかなかハードルが高いが、刊行に向けてのロードマップを策定しながら進めていきたい。

緒志委員：財政状況が厳しいこと、財政当局との折衝が難しいことは十分理解する。ただ、毎回この会議の内容がほぼ同じ報告であり、同じことの堂々巡りになっている。本来の目的である市史編さんということに向けて、具体的に進むような形にしてほしい。

事務局（戎谷）：市史編さん事業が市民に見えないということもあり、どうやったら見える形にできるのかを第一の課題として取り組んできた。ひとつには、『史料編 近現代』を編集しながら概要版を先行で出すという考えもある。また、歴史読本や市制100周年の歩みについては、関係部局と編集発行を目指す考えもある。いずれにせよ、積極的に市民に発信していく形を整えていくことを考えている。史料のデジタルアーカイブ化についても前向きに考えていきたい。

緒志委員：歴史読本の原稿はできているのか。

事務局（土屋）：まだ企画段階で構成案があるのみである。

吉田会長：「千葉らしさ」をモチーフとすると、加曽利貝塚・千葉氏・大賀ハスなどがちりばめられるような内容のものを千葉市の歴史として出していくのか。

事務局（戎谷）：当館だけで考えていた歴史読本とは少し異なっている。ただし、加曽利貝塚・千葉氏・大賀ハスなどが千葉市の歴史のすべてではない。

吉田会長：これまでの市史編さん会議の考えでは、歴史読本は市史編さん事業を踏まえたブックレットであり、こういった千葉市のプロパガンダ的なものではない。千葉市に居住している人たちの歴史について、史料を踏まえた市史編さん事業を行ってきているので、それを基にしたブックレットというイメージを考えていた。今回の提案はそれとは異なるものかと思う。

事務局（戎谷）：これまでの市史編さん会議で話し合われていた歴史読本をベースに考えているつもりである。

吉田会長：そもそも都市アイデンティティ戦略プランと何か。先程から話にある実施計画の基となる中期的な市の戦略プランと考えてよいか。

事務局（戎谷）：アイデンティティなので「千葉らしさ」をどう出していくかということである。調査研究と発信という項目で市史編さん事業を戦略的に絡めて考えていきたい。

本郷副会長：千葉氏サミットが開催されたようだが、こうしたものに予算が出せるのに、なぜ『史料編 近現代』の刊行には予算が付かないのか。この10年くらい、同様の提言を行ってきた。都市アイデンティティの関係部署があるのか。

事務局（戎谷）：総合政策局の政策調整課に推進室が設置されている。

本郷副会長：『史料編 近現代』の編さんは都市アイデンティティという面では十分に同じストーリーに乗れるはずだと考える。市として当たり前のことだと思う。

吉田会長：都市のアイデンティティとは何か、「千葉らしさ」とは何かということは大きな問題で、行政的に考えるのは自由だが、そういう事と、調査研究の中から何が現在の千葉市を作っているのかを考える事とは別ではないか。前者はいわば「思いつき」で出てくることもあろうが、市史編さん事業は古文書の調査などを

含め「らしさ」を地道に積み上げている。千葉氏だけではなく、こうしたことも都市アイデンティティとして重要なものとして認識する必要があると思う。

池田委員長：都市アイデンティティについて、『史料編 近現代』の編さんにあたり市民の協力が必要である。一部の委員が携わるだけでなく、多くの市民が関わる仕組みを考えることの方が、千葉に対する愛着やアイデンティティにつながるのではないかと。史料編の編さんは専門家が中心になって行うものと思われがちだが、ボランティアや地域に関心を持った方が主体的に参加できる方向、仕組み、組織を考えることはできないのか。そうしたことがアイデンティティにつながり、予算獲得を訴えるための戦略にもなるのではないかと。それぞれの地域の人たちが地域のことを学ぶという気運が高まっている。そうした方々と連携しながら作る市史編さん事業という方向を打ち出していくことが、市の掲げるアイデンティティにつながると思う。

事務局（戎谷）：市史編さん事業について議論した際、市史編さん事業方針の1つとして市民協働という方向性を考えた。そのために4つの柱を考えている。1つめは史料整理ボランティアの活用を図るなど、市民参加・参画の機会の拡大に努めること、2つめは市民や地域の大学と協同して地域の歴史の掘り起こしをしていくこと、3つめは地域の研究団体や学校と連携して市史編さん事業の普及に努め、次世代の人材育成を図ること、4つめは市史研究講座や古文書講座を継続し、郷土理解の活性化を図り、市民の郷土意識の向上を図ることである。この4つの柱をもとに具体的に考えていこうと思っている。ご意見をいただいた件についても同様に考えていきたい。

本郷副会長：そうした方針や考えを具体的に提示していただけるとよい。どうしたら『史料編 近現代』の編さんを進展させることができるのかを議論するため会議に出席したので、そのたたき台になるような資料をお願いしたい。

吉田会長：あるいは今日の議論の最初に発言していただけると、今回の議論も深まったと思う。

事務局（戎谷）：ご指摘のとおり、市史編さん会議は報告ではなく議論の場である。ご指摘の方向を今後活かしていきたい。

吉田会長：市史編さん会議とは別に、ワークショップとして別の場を設けてもよい。今の4つの柱などは重要な、生産的な内容を含んでいるので、そうしたことを提示したうえで、フリーディスカッションする場を設けてもいいのではないかと。

緒志委員：出版業界で「在版主義」というのがある。前年に準じて作るにどうしてもなりがちである。それを捨てて、今日どういう状況に変化しているのかという話を資料に盛り込んでいただけたら、わかりやすいと思う。

事務局（戎谷）：だいぶ資料の内容を変えて来ているが、まだ具体的に説明する必要はあったと思う。ご意見いただきながら改善していきたいと思う。

吉田会長：では、議題2について、あるいは議題1・2を通して他に何かあるか。無ければ議題3に移る。

### 議題3 その他



<質疑応答>

吉田会長：議題3はその他とあるが、何かあるか。特に何もなければ、以上をもって議事を終了する。今回の会議では、具体的な内容が多く話し合われたので、ぜひ参考にしてほしい。ワークショップ的なものを設けて、率直に意見交換をするのもいいのではないか。その辺りもご検討いただきたい。

小川副館長の進行により平成28年度第1回千葉市史編さん会議を終了する。

問い合わせ先 千葉市立郷土博物館市史編さん担当  
TEL 043-222-8231